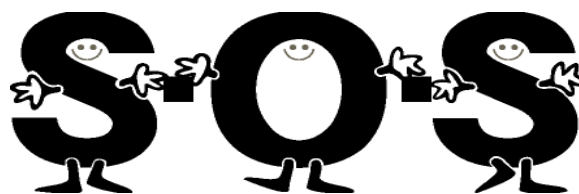


vol. 110通信 (平成21年10月9日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《秋の味覚杯／ナイス・デイ》



奇数月にはボーリング大会を行っています。9月末の大会は「秋の味覚杯」と名付けられ、ピン替わりのペットボトルには皆で色を塗った秋刀魚、マツタケ、柿、ぶどう、お団子と秋にちなんだ絵が貼られました。白熱した戦いが繰り広げられた秋の味覚杯は、Mさんの初優勝で幕を閉じました。食欲・文化・スポーツの秋。10月は運動会、11月は文化祭を企画中です

《反省できてない／ナイス・デイ》

「何で、ちゃんと言ってくれなかったの？」通所介護を利用中、立ち上がり介助時にズボンを持ったら“バリッ”と音がして破れた。その事実を連絡せず、報告書にも記載忘れ、送迎時にも口頭で伝えることを忘れ……。しかも、その話を聞いた瞬間、スタッフが思わず「私では分からないので、担当した者に聞いてみます。」と答えた。

家族の気持ちを真摯に受け止めると、その時の出来事うんぬんよりも、その時の職員の姿勢に一段と腹が立ったとのこと。「あなたもナイス・デイの職員でしょ？その時担当してなかったら謝ることもできないの？」……反省。その後、また同じような対応があった。心の底で「ふんっ」と思っている部分があるかもしれない証拠。あかん。

《何食べる？／S・O・S》

毎月10日は外食デーです。地域のお店に出かけ、メニューを吟味して選び、楽しく食事をします。この日を楽しみにしている人も多いため。9月の外食はショッピングセンター内にある丼専門店へ出かけました。親子丼・海鮮丼・かつ丼・ネギトロ丼…それぞれに好きなものを選び、美味しく頂きました。いつもと違う雰囲気の中で普段より沢山食べられる人もいます。



《モップかけ中～／社内託児》



「汚すだけの存在だと思わないでね」と言わんばかりにモップで床をきれいにしてくれるO兄弟。最近では、おもちゃをきちんと片づけるし、「かあちゃんが居ない」と泣くことも少なくなったし、成長しているのを感じます。…って誉めていたら、子供同士で喧嘩を始めました。相変わらずだ…(笑)

《優雅な舞と音色／S・O・S》



シルバーウィークの最終日はボランティアさんによるオカリナ＆フラダンスショーの開催。ご家族も来訪し優しい音色と優雅な踊りに見とれ、拍手！フラダンスを見て思わずお尻を振り始めた子供達、手が動き出す利用者さん…。オカリナの伴奏で「上を向いて歩こう」を合唱。歌と踊りを子守唄にしちゃった人もいたけれど、皆落ち着いた眼で、やさしい顔で見えていましたよ。歌と踊りの効果ですね。

《頑張りまっす！！／ナイス・ホーム》

Y・Oです。「管理者をやってみない？」と話があった時、『なんでアタシ??』とビックリ！！どきまぎしながらも前向きに受け止めようと考えようになり、引き受けました。管理者の必須条件となる研修を受講し、管理者とは？地域密着とは？小規模多機能型居宅介護とは？の分からないことばかりを学び中。以前ナイス・ホームに関わっていたスタッフにも休止になった経緯や、反省点など色々な話を聞きほじています。

「これが小規模多機能の良い点です。」とは未だ言い切れないものの、分かった事はただひとつ。『こんな良い制度があったんだ』ってこと。目からウロコでした。基本は計画的な利用にはなるものの、計画にない緊急SOSの声にも普通に対応できるんです。

また、「地域密着型」との事で、地域への働きかけも課題の一つです。「どのように呼びかけようか…」「どんな風に交流できるのか…」と只今思案中です。

利用者さんやご家族さん等とよく話し合い、一緒にがんばっていける「ナイス・ホームの管理者」を目指しますのでよろしくお願いします。



老いの姿を学ぶ ～愛宕の家の日々より～ その8

“何かやること無い!?”

愛宕の家の住人は、各々が自分の居場所と生きている今を微妙なバランスの中で見出している。Kさんは、ちょっと落ち着かなくなるとウロウロし『何かやること無い?』と言う。スタッフが『〇〇をやってくると助かるな』と答えると、『そんなバカらしいことか!』と色々文句を付け、それでも、又、『何かやること無いのか。』と言う。

そのKさんが、最も集中できるのが洗濯物たたみ。しっかり者のMさんは、傍でたたみ直しに精を出す。M氏は、食事の後片づけがとっても上手い。食事が終りかけになると、いつも『俺がやるから』と率先して台所に立ち、温和な顔で、流しにある食器類を洗い始める。『本当に助かる』と感謝の言葉を伝えると、『こんなことは、自分の気分も変わってすっきりするよ。』と言ってくれる。

Tさんは、『食べて寝てばっかじゃあ太って困るわ。』が口癖。M氏の食器洗いの後の片付けはお任せ。『まあ～、おいてきゃあ、後でやっつくで。』とニカッと笑いながらいそいそと動いて食器棚に収めてくれる。

愛宕の家の住人は、見えない場所(脳)に病気を抱え介護を必要とする状態にある人が多く、傍から見れば、ただ訳分からずで、日々、誰かの手助けによって生きているだけ…という様に見えてしまうかもしれない。

しかし、今までの生活歴の中でしっかり身につけてきたことは『何か自分のやれることはないか……。』という気持ち。その時々で、それを日課としたり、“ちゃんとやる”という形を求めることができない時もあるが、一緒に時を過ごす者としては、その気持ちを感じ取る度に嬉しくなる。ともすると、一日中、ポオー——ツとして過ごしていることがあったとしても、生き生きとしたその瞬間を見るのが愛宕の家のスタッフの喜びにもなっている。そのような機会を少しでも多く作れるような働きかけをすること、自分の存在価値を感じる事が、認知症の進行を遅らせる唯一の方法かもしれない。(I)

《アンケート結果／S・O・S》

今年も7月末にアンケートを行いました。答えの欄で、はい・いいえに〇が記入されていない箇所などは、『事務所に何かを感じ取って欲しい』というサインだろうと受け止めています。ここに特記事項欄の一部を掲載します。皆様のご協力に感謝し、今後に生かすよう努力します。

ナイス・ケア

『介護計画書の見直しをお願いします』
『お願い。朝・夕のヘルパーさんを同じ人に』
『来てもらうことを楽しみにしています』

ナイス・デイ

『他の人のように普通の食事は出来ないのだから外食は遠慮させていたいただきたいと思います』

愛宕の家

『正当な報酬を得るキーワードは3つあると思っています。』
①人を預かっている…愛の責任感
②安全と効率のための…集中力
③それを支える…体力』

《凝っとるねえ／ナイス・デイ》



おやつ時間、肩こりの話題になりました。「辛くてねえ」と話すNさんにTさんが「よう凝っとるねえ」と肩をモミモミ…。同じ世代だからこそ体の辛さも分かるというもの。他の人も加わり、足が痛い・腰が痛いと話しながら「冷やすといかん」「体操がいいらしい」等と情報交換の井戸端会議になりました。

《編集後記》

最近、エコ生活を意識している人が多いと思います。サポート・ワン・サービスでも新聞広告の白い裏面を利用してメモ帳を作ったり、広告でゴミ箱を折って下さる利用者さんがいます。私の祖母も着なくなった着物をほだいてエコバックを作ってくれました。新しいものを買うことは簡単だけれど、あるものを活用することは大切で、案外楽しいことだと人生の先輩は教えてくれます。「あんた達の子供や孫…ずっと先のことを考えたら資源の無駄遣いは出来んわ」と話す方々を尊敬し、そんな方々を大切にしたいです。(M)